



寺ネット・サンガ通信 第12号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階

Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

あ～、もったいない！

浄信寺ホームページ「住職より」から転載



寺ネット・サンガ副代表 吉田健一

今、あなたの手の上に「おにぎり」がひとつあると想像してください。
おにぎりはご飯を炊かなければ握れません。
いや、お米を買ってこなければご飯は炊けません。
精米したり、農家の方が丹精込めてお米を育てたり…。
あなたがおにぎりを手にするまでにどれだけ多くの物語が存在するでしょう。
突然に手の上に上がることなどありえないのです。

遠足の日の朝、興奮してまだ夜が明けきれぬ前に目が覚めたあなたは、台所でお母さんが心を込めておにぎりを握る後ろ姿を見たとしましょう。
さて、あなたはこのおにぎりを粗末にできるでしょうか。
コンビニに行けば、おにぎりは百円で買えます。しかし、百円のおにぎりに百円の価値しか見出せないのはもったいないことです。いや、何事も金銭で計ってしまうことはあなたが見る世界を小さくしてしまうことであり、実にもったいないことですね。

「勿体ない」という言葉は、心の目を開き、見えない物語に思いを向けた時にそのモノを粗末に思えなくなる感情を言うのかもしれませんが、「たかが百円、されど…」、このあとに続く思いや想像力を現代の私たちはもっと養うべきではないでしょうか。

百年前には私の存在は気配すらありません。しかし私のストーリーは確実に見えないところで進んでいました。私たちが子どもや孫の未来が幸せであれと願うように、私たちの先祖もそのように願ったはずです。

でも私たちはその願いやお陰を忘れ、平和で豊かな生活を当然のように享受しております。果たして私たちは百年後を生きる人々の物語に何を与えられるのでしょうか。

ある日突然この世にパッと生まれパッと消えて行く存在などありません。

あの人にもこの私にも、すべての人に等しく尊い物語があります。

「人はどうせ死んだらお終い」などともったいないことを言わずに、
「たかが」人生八十年、「されど」百年後の未来を生きる誰かの為に、
あなたの「今」を見つめなおしてみませんか。

お盆やお彼岸などの法要や葬儀・追善供養はそのような目には見えない絆、
そして過去、未来の物語に思いを向ける好機かもしれませんね。



平成26年12月10日

問題提起「供養に関する悩み」 寺ネット・サンガ事務局長 樋口清美



供養に関しては悩んでいる方がたくさんいます。

供養コンサルジュとして、実際に一般の方々から寄せられた相談事例も紹介しながら、悩んでいる方々に安心して「これでいいんだ」と思ってもらえる形を今年で7周年を迎える寺ネット・サンガの記念として残したいと思っています。

6回に分けて取り上げるテーマは次のとおりです。

- ①供養のやり方がわからない
- ②宗教(信仰があるが故の悩み)・無宗教(信仰を持っていないが故の悩み)
- ③仏壇・位牌に関する悩み
- ④お盆・お彼岸・法事など行事に関する悩み
- ⑤お墓とお骨(墓じまいや散骨など多様化する状況の中で)
- ⑥死生観(死んだらどうなるか)

毎回、プチ法話と坊コン談義で掘り下げていきます。

平成27年1月15日

プチ法話 「供養とは」 大田区 日蓮宗 永寿院住職 吉田尚英

「供養のやり方がわからない」



仏教ではまず「仏・法・僧」の三宝に対する供養を大事にします。仏・法・僧をオーケストラに例えると、教えを説いた「仏」は作曲家・いのちの真理ともいうべき「法」は楽曲・正しい教えに導く「僧」は指揮者にあたるのではないかと思います。この三つが揃ってこそ、本物のいのちの調べが奏でられるのです。

故人に供養をするときに「心さえこもっていればお坊さんは呼ばなくてもいいのでは?」「形だけの供養は要らない」という声を耳にします。どんなに演奏者が心を込めて演奏しようとしても、「作曲家・楽曲・指揮者」がよくなければ心に響く演奏はできません。供養も同じことで、本物の「仏・法・僧」が揃ってこそ本当の供養ができるのです。亡き方に大事な想いを届けるためにも、本物の「仏・法・僧」に出会うための努力をしてください。それが修行だと思います。

また、供養は双方向です。「これだけは供えてほしい」と自分の死後、遺された人がお参りしやすいように、生きているうちにコミュニケーションしておくことも双方向の供養のためには大切です。

平成27年3月3日

プチ法話 「宗教・無宗教について」平塚市 浄土宗 浄信寺住職 吉田健一

「宗教・無宗教」



愛する人が死んだことを認めたくないから、葬式もその後の供養もしたくない、という人も多いかもしれません。一方でやはり死をどこかで認めなければならぬ時が来るという現実もあります。無宗教と言う方には「死んだらお終いだ」と考えてお葬式やその後の供養をしない方もいるでしょう。しかし、遺された方にすれば、亡き方との心の触れ合いを求めることも必要です。故人が葬式も供養も不要だと言い遺しても、それを受け止められないご遺族がいて当然です。

お葬式という儀式において宗教的な変換作業を経ることで、故人は肉体的、社会的な役割としては「死んでいる」が、かけがえの無い霊的存在としては「死んでいない」という二つの世界観の狭間で遺族は「揺れる」こととなります。私は、この「揺れる」ことがグリーフワークには大切なことなのだと考えています。

「無宗教」と言う方の声にも耳を傾けて、愛する人を喪うという現実にどれだけ向き合えるのか?無宗教の立場にどれだけ寄り添えるのか?彼らの持っている思いと、私たちの宗教的儀式や理念が合致することが見えてくるかもしれません。

坊コン談義「こんな供養は〇〇だ！」

- ・極楽浄土をどこまで信じているのか。そこにお坊さんと一般の方の死生観の乖離があるように感じる。
- ・実際に葬儀を体験してみると、「何かが足りない」と気づくこともあるのでは。
- ・死後をイメージできていない、できない。
- ・親に供養や死後の話を切り出せない。実際亡くなった時にどうすればよいか。今も悩みが続いている。
- ・「死んでからどうする？」という話題について話し合える場が必要かもしれない。

坊コンパネル

- ・そもそも「供養」って何？「そなえて、やしなうこと」。わかりやくいうと「おもてなし」と同意義。
- ・供養は心の問題？でも心があれば形はいらない、という考え方に疑問を持ってほしい。
- ・何回も法事を希望する方もいます。「決まり事だから」と、複雑に難しく考えなくても良いです。
- ・お坊さんにしかできない何かがあるから、お寺に行き、託すのではないか
- ・お坊さんが故人は大丈夫だと認めることで「供養になったのだ」と安心が生まれる。
- ・供養に決まった形はない。心の中で生きている大切な人に思いを寄せることが大事。

坊コン談義「あなたのしてほしい供養」

- ・「自分が供養される立場になる」ということをイメージできない。
- ・誰が供養してくれるのだろうか。
- ・自分の供養よりも、きちんと供養やお墓参りをできていないことに申し訳なさを感じる。
- ・好きだったものを供えてほしい。
- ・供養の意味をしっかり理解している人から、お線香を供えてほしい。
- ・供養は、生きているあかしでもあり、これからも生きていく決心を示すこと。

坊コンパネル

- ・お骨を自然に還すことは、供養を自然に委ねるという考え方もある。
- ・「故人は自分の心を支える一部」であり、供養を伴わない散骨や直葬など後に自分の心の支えを失ってしまうことが心配だ。
- ・家が絶えて無縁になった墓をとりまとめた「総墓」のようなものがあればいい。遺骨だけでなく思いも共有できるような供養ができることが理想です。法的・経営的マネジメントも必要になりますね。
- ・極悪人に供養の気持ちを抱くことができない。それができるのが宗教者ではないだろうか。

坊コン談義「宗教・無宗教」

- ・亡き人を想い続けることが供養ではいか。
- ・見ず知らずの人にも手を合わせ、花を手向ける行為を自然にできるのは宗教を超えたものではないか。
- ・おじいちゃんおばあちゃんから供養について学ぶ機会がなかった若い世代の人達が、知ろうとしないまま「お金がかかるからいいや」と低いレベルで手ばなしてしまっているのは残念。
- ・身内やペットの死によって自然と手を合わせる気持ちが生まれた。
- ・自分の家の宗教に悪い意味で振り回されてしまった経験から、宗教から解放されたいと思った。

坊コンパネル

結婚した相手の家の宗教と実家の宗教が違ったという質問に対して僧侶の意見を伺った。

- ・家族でどの宗派で葬儀をしたいか話し合うことも大切。
- ・供養は生きている人のためのものではないか。今生きている人が宗派を選べばよい。
- ・故人が向こうに行ったら何宗でも大した違いはない。
- ・宗派よりも「いいお坊さん」のところに行くべきで、これから先はそうなっていくと思う。
- ・2つの宗派で供養できるなんて有難いと思うと気持ちが楽になるのではないのでしょうか。

第19回

平成27年2月26日

日蓮宗 妙勝寺



○お札づくりワークショップ

お札の種類について学んだ後、参加者はオリジナルのお札作りに挑戦しました。お題目を写経し、横に祈願と日付を書き入れます。折り方を教わりながら、半紙で折り込んで、金帯を付けて完成です。

○本堂にてご祈祷

参加者は、高松住職を導師に先ほどの手作りのお札に託した祈願を胸に参列しました。太鼓の音、大きな読経の声に堂内が震えるようです。木釘を翳し、九字を切る、切り火を切るなど激しい動きも多く、その迫力に圧倒されます。

○ゆったり寺ヨガ

本堂にて、ヨガ講師のmomoco先生のご指導のもと、ヨガに挑戦しました。ゆっくりとした動きなので、息があがることはありません。お寺という空間の影響もあったのでしょうか。徐々に心が静かに、落ち着いてくるのを感じます。

第20回

平成27年4月15日

浄土宗 浄音寺



○死の体験旅行

自分の「死」を疑似体験しながら、普段は考えない自分の心を見つめる企画「死の体験旅行」が、定員20名、一人の遅刻もなく集合し開催されました。今回は体は動かず、心とイメージで行うツアーです。

会場は西新宿のビル街にあります浄土真宗本願寺派浄音寺。

「死の体験旅行」というと中には最近はやりの「入棺体験」のようなものと勘違いされていたかたもいたようで、さぞ驚かれたと思います。

ファシリテーターの浦上さんの落ち着いた通る声が皆の心と脳に深くしみて行き途中で色々な感情が湧き上がったかたも多かったと思います。

内容は、今後別の場所で受ける方もいらっしゃるのですが、ここでは詳しく書くことはしませんが、寺ネット・サンガで取り上げるに足るには、かなり深い企画ではありました。

最後に浄音寺の高山住職から、今日の結果は「今」の結果であり変わっていくこともあるというお話をいただき、人の想い、ということを改めて考えました。

寺ネット・インフォメーション

寺ネット・サンガ 今後の予定

6月10日(水)18:00～20:00 仏教ひとまわりツアー 三郷市 日蓮宗高應寺「ホテルの夕べ&瞑想会」

7月23日(木)18:30～20:30 坊コン 築地本願寺 プチ法話 浄土真宗 松本智量師

9月30日(水)18:30～20:30 坊コン ウィズビジネスセンター プチ法話 真言宗 青木隆興師

11月10日(火)18:30～20:30 坊コン ウィズビジネスセンター プチ法話 真言宗 名取芳彦師

※参加お申込み先 ・ホームページ <http://teranetsamgha.com/>

・フェイスブック <https://www.facebook.com/teranetsamgha>

・ファックス 03-5201-3712

正会員は寺ネット・サンガのホームページで情報を発信することができます

事務局にお申し出いただきますと、正会員用アカウントを発行させていただきます。ログインして「会員用のマニュアル」に沿って、登録や記事の投稿をしてください。ご自身の活動発表やイベントの告知等、仏教関係のみならずイキイキと生活するための公共の利益になる情報・知識大歓迎です。